

令和5年度  
土浦市姉妹都市交流  
パロアルト市中学生受入事業実施報告書



主催：土浦市・土浦市国際交流協会



## 目次



☆パロアルト市紹介	.....	1
☆参加者名簿	.....	2
☆受入日程	.....	3
☆参加者レポート	.....	4~34
☆参加者レポート From Palo Alto	.....	35~41
☆活動紹介写真	.....	42~47

例年実施していた中学生交換交流事業は、令和2年（2020年）3月から令和5年（2023年）3月までの間、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされました。

今回の交流は、お互いに協議を重ねた結果、土浦市からの派遣は実施せず、パロアルト市の中学生がホームステイを行うという内容で実現しました。

土浦市内の中学生在住家庭を対象にホストファミリーを募集し、10家庭でホームステイを実施いたしました。この報告書では、ホストファミリーの体験談や滞在中の様子などを掲載しております。

4年ぶりの対面交流となり、例年とは異なるプログラムで実施いたしました。この報告書から是非ご覧ください。

# 姉妹都市 パロアルト市ってどんなところ？



パロアルト市



↑パロアルト市庁舎前にある姉妹都市を示す看板

## ◆ 位置

パロアルト市は、アメリカ合衆国カリフォルニア州北部サンフランシスコ湾岸地域のサンタクララ郡にある都市です。  
(サンフランシスコの南約56 km、車で約50分の距離にあります。)

## ◆ 面積

約70 km<sup>2</sup> (土浦市のおよそ2分の1)

## ◆ 人口

約6万7千人

## ◆ 概要

パロアルト市はシリコンバレー北端部にあり、スタンフォード大学の町と言われております。全米屈指の大学のお膝元であり教育水準のもっとも高い都市と評され、その住みやすさも相まって多くの人々を惹きつけております。大学は数多くの起業家、エンジニアを輩出し、ゆえにパロアルトは多数のハイテク企業が生まれ育っていく地となりました。Apple、Google、Facebook など、世界に名だたる企業がパロアルト市から世界に羽ばたいています。

「パロアルト」とは、スペイン語で“El Palo Alto(背の高い木)”を意味する言葉です。サンフランシスコキート川沿いのアメリカ杉にちなんで名付けられました。

## ◆ 交流の経緯

平成5年(1993年)に旧新治村に進出したパロアルト市に本社のある企業の協力により、同市在住社員の家庭にホームステイする派遣事業を開始しました。ネイバーズアブロード(パロアルト市の国際交流団体)を中心とする多くのボランティアの協力により交換交流を継続しております。

平成21年(2009年)4月、両市は姉妹都市の締結をし、土浦市にとって初めての姉妹都市が誕生しました。

参加者一覧

ホスト

パディ

No.	土浦市			パロアルト市		
	生徒氏名	学校名 (学年)	性別	生徒氏名	学校名 (学年)	性別
1	おおや りょう 大屋 諒	土浦一中 8年	男	Levi Vollmar	Greene 8 <sup>th</sup>	男
2	こむろ こうたろう 小室 孝太郎	土浦一中 9年	男	Hanting Liu	JLS 8 <sup>th</sup>	男
3	まつもと るな 松本 朋	土浦二中 8年	女	Celena Gao	JLS 7 <sup>th</sup>	女
4	なかた まゆ 仲田 真優	土浦二中 9年	女	Alexandria Lungren	Greene 7 <sup>th</sup>	女
5	なかや ゆな 中谷 優菜	土浦三中 8年	女	Harriet Bittinger	Greene 8 <sup>th</sup>	女
6	あくつ たけお 阿久津 丈雄	土浦四中 7年	男	Toby Fujieda Golbus	Fletcher 8 <sup>th</sup>	男
7	はまだ たみお 濱田 民雄	土浦五中 8年	男	Tyler Savard	JLS 7 <sup>th</sup>	男
8	いしわだ みなと 石和田 湊	土浦五中 9年	男	William Calvert	JLS 8 <sup>th</sup>	男
9	かんだつ はるひ 神立 春陽	土浦六中 9年	女	Theresa Soonsan Kim	Greene 8 <sup>th</sup>	女
10	おおせき なお 大関 直	土浦一高附属中 1年	男	Wyatt Saxon	JLS 8 <sup>th</sup>	男

令和5年度土浦市姉妹都市交流パロアルト市中学生受入日程

	月 日	時間	日 程
1	6月14日 (水)	16:40  19:00-	●パロアルト市一行は、この日まで関西研修。 伊丹空港より羽田空港着。その後、土浦へ。  ●対面式（二中地区公民館） ホームステイ開始！
2	6月15日 (木)	日中	●学校体験 バディはホストの中学生と学校へ  ※パロアルト市引率者：午前／中学校訪問、給食試食
3	6月16日 (金)	午前  給食後 14:30- 15:00  16:00- 16:30	●学校体験 バディはホストの中学生と学校へ  ●向上庵訪問（土浦市小野） 両市中学生で座禅体験を行いました。  ●市長訪問（土浦市役所本庁舎） 両市中学生、パロアルト市引率者が参加し、パロアルト市からの親書の披露、代表あいさつ等を行いました。 ※パロアルト市引率者： 午前／中学校訪問、午後／向上庵訪問、市長訪問
4	6月17日 (土)	終日	●ホストデイ 各ホストファミリーと自由に過ごしました。
5	6月18日 (日)	10:00-  12:00	●答礼パーティー（都和公民館） レクリエーションを行いながら、交流を深めました。  ●パロアルト市一行がバスで成田空港へ出発後、解散

# 参加者レポート

また日本に来て欲しい！！

土浦第一中学校 8年 大屋 諒

僕は日頃から、「海外の友達が欲しい。そして多様な価値観に触れたい。」と  
思っていたので、土浦市中学生交換交流事業にぜひ参加したいと思い、応募し  
ました。

楽しみにしていた Levi のホームステイでしたが、平日は家族の体調不良が  
あり交流することができず、一緒にやりたかったことの大部分ができません  
でした。

そのまま会えないと思っていましたが、週末は一緒に過ごせる事になり、水  
族館へ遊びに行きました。そこで、アメフラシを見た時に、「英語では『Sea  
hares』と言うんだよ。」と教えてくれました。海の生き物には、SEAがつく  
ものが多いんだそうです。

帰国した後に、「近い将来、また日本に来たい。」と言ってくれたので、その  
時には今回できなかったことを一緒にしたり、さらに交流を深めたいです。

運営の皆様には、この様な素晴らしいプログラムに参加させて頂き、誠に感  
謝申し上げます。ありがとうございました。

L e v i 君、またね！

大屋 潤（土浦第一中学校 大屋 諒 保護者）

とても楽しみにしていたホームステイでしたが、家族の体調不良により家庭へ受け入れることが出来ませんでした。

「Levi 君は背が高いみたいだけど、学校の制服のサイズはあうかな？」、「放課後には、近所のパン屋さんや駄菓子屋さんに連れて行きたい！」、「クッキングナイトはたこ焼きパーティー！」、「ホストデイは、候補の中から一緒に相談して決めよう。」など、一緒に過ごすことをとても楽しみにしていました。当人二人にはどうすることもできない理由で受け入れが出来ず、ホストファミリーとしても、親としても心苦しく、申し訳ない思いでおりました。そんな中、ホストファミリーの大関さんが Levi 君を家庭で過ごさせて下さり、スタッフが登校に付き添って下さり、Levi 君が日本の家庭や学校を体験出来たことがとても嬉しく、ほっとした思いでおります。また、日米両国のスタッフが二人のホストデイにも心を寄せて下さり、帰国前に一緒に過ごすことが出来ました。車に並んで座る二人の写真を Levi 君のお母さんに「会えたよ！」と報告して、子供達が生きた喜びを分かち合うことが出来た事もとても嬉しかったです。移動中や水族館を周りながら、会えなかった時間を取り戻すかのように話をする二人が微笑ましく、帰りの車で頭を寄せて並んで寝る二人の姿を Levi 君のお母さんにも見せたかったです。

この度は、皆様の温かい気持ちに触れ、そして助けて頂き、心に残るホストファミリー体験となりました。今後も、両国の交流事業を通じて、沢山の人の人生が土浦やパロアルトで交わることを願っております。お世話になり、有り難うございました。

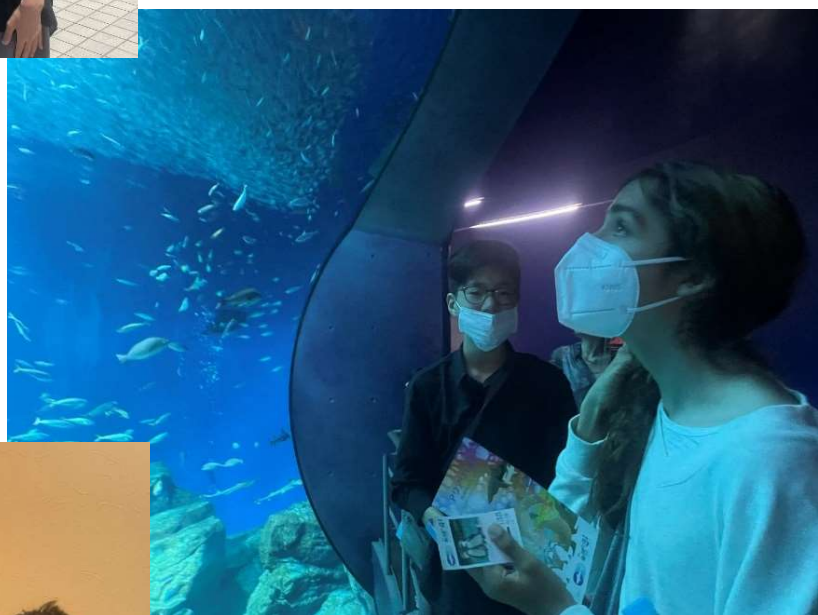


<Leviと大屋ファミリー>



初めて会ったLevi君と大洗水族館へ

沢山の魚を見て回る二人



ジャパニーズカレーを食べてみたかった  
Levi君とカレー屋さんへ

Levi君のママに「無事に会えたよ！」と初日に撮って送ってたかったメールが、最終日に撮れました！



## 新しいことに触れ、学んだこと

土浦第一中学校 9年 小室 孝太郎

私はバディとともに時を過ごし、たくさんの発見を得ました。その中でも大切だと思ったのは、コミュニケーションの重要性です。

バディとの一日目の夜、私は『完璧な英語を話さなければ』と思っていましたが、いざ話してみると、完璧でなくてもコミュニケーションがとれるのだと気付きました。完璧に話そうとして相手に伝わりにくいが、こういう事を伝えたいという気持ちを持つことで、バディとコミュニケーションをとることができました。これは、他言語で話す際だけでなく、初対面の相手やあまり話さない人と話す際にコミュニケーションをとろうという積極性や気持ちが大切だと思います。

また、バディとは共通の趣味である、アニメと音楽で繋がることができました。彼の日本へ興味を持った理由の一つである日本のアニメで話に花が咲きました。自分の好きな作品、自分のよく知らない作品について話し、コミュニケーションをとることができました。そして、私の所属している吹奏楽部の活動とともに参加することで音楽を通し、より仲を深めることが出来ました。楽器を吹く際、ともに気付いたことを指摘しあうことでそれぞれの上達にも繋がりました。このようにして、共通の趣味について話すことで、バディと仲を深めながら新たな知識を得ることが出来ました。

共に生活をし、コミュニケーションをとることで他国の文化について知ることが出来ました。元々知っていたものに加え新たな知識を得ることができ、とてもよい時間となりました。バディの国の文化を知るだけでなく、日本の文化について説明することで、改めて日本の文化について知ることができただけでなく、他国の文化と日本の文化との相違点を知ることが出来とてもよい経験ができたと思いました。

この経験を通しコミュニケーションの重要性を知ることができ、そのコミュニケーションをとることでバディとの仲を深めたり、文化について知ることができたりしました。この貴重な経験をこれからの生活に生かしていき、またこのような機会があったら、参加してみたいと思います。今回はこのような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## 素敵な日々

小室 幸子（土浦第一中学校 小室 孝太郎 保護者）

初めの一步は、私も息子も『国際交流の学生を受け入れしてみたい』と興味でした。時が経つにつれ心の中では、ゲストに喜んでもらえるか、楽しく過ごしてもらえるか、つたない英語で大丈夫なのかと不安ばかりでした。しかし、ゲストの笑顔で少しずつ不安が解消しました。

言葉がなかなか通じず、何度も同じ事を聞いてしまったり、理解していたと思っていたら、違っていたりとゲストには困った思いをさせてしまったと思っています。もちろん子供の国際交流ですが、私の国際交流ともなり私なりに出来る事をしようと、ゲストに美味しいご飯を作って食べてもらいたいと思いました。

バディはコロッケ、豚カツ、牛丼やたこ焼きを気に入ってくれました。また、日本米も好きでおかわりをしたりと、楽しい食卓となり作りがいがありとてもうれしかったです。

また、土曜日のホストデイには夕食にゲストが私たちにチャーハンを作ってくれました。とても美味しく、子供達もおかわりをして絶賛していました。なんだかもう一人、息子が増えたようでにぎやかで、温かい食卓になりとても充実した時間でした。

息子もコロナ禍でいろいろなイベントに参加できなかったこの三年間、ふさぎ気味だった考えでしたが、ゲストとメールでのやりとりや会話や、お互い音楽を通して理解し合え、とてもすばらしい日々を過ごせました。

普段、家族には見せない一面もみえました。ゲストとの積極的にコミュニケーションをとり、何とか自分なりに思いを伝えようとする、頑張っている姿がみられました。

得意ではないことを挑戦してみることは、いくつになっても大変な事ですが、今回の国際交流を通して家族がひとつになり、とても貴重な時間を過ごせたことが、家族の心の財産になったのではないかと考えています。

最後に、土浦市市民活動課の職員の皆様、この事業を行って頂きありがとうございました。素晴らしき事業に参加させて頂き、視野も広がり貴重な体験ができました。とても感謝しております。また、機会がありましたら、是非参加させて頂きたいと思っています。

## ハンティングと小室ファミリー



登校初日



小6の弟と



小町の里で



メインは手作りコロッケ



みんなでたこ焼きパーティ



町内の書道教室で



フルートの練習



ゲストの手作りチャーハン



土浦市内霞ヶ浦湖畔にて

## 一期一会

土浦第二中学校 8年 松本 朋

私は、5日間バディと一緒に過ごして、たくさんのことを学びました。ホームステイが始まる前、外国の方と一度も話をしたことのない私は、初めて話すことにとてもワクワクしていました。初めて会ったときは何を話せば良いか分からず戸惑ってしまい、バディを困らせてしまう事が多々ありましたが、日々一緒に過ごしていくうちに気持ちの伝え方、表現の仕方や様々な単語など、沢山知る事ができて楽しかったです。私が英語の勉強になった一方で、日本にとっても興味があったバディの Celena から日本語を教えてほしい。と言われた時に上手に教えることができるのか不安でしたが、徐々にバディが日本語を話せるようになって、感謝されたときはとても嬉しく、人に感謝されることって気持ちいいと改めて感じました。学校体験では、クラスのみんなも最初は何を話せばよいか分からず戸惑っていましたが、「明るく話そう」とアドバイスした結果、2日間という短い期間でしたが、バディとクラスメイトが打ち解けて笑顔で話をしている所を見るとなぜか安心して、心が温かくなりました。掃除などアメリカの学校には無い文化に戸惑っている事もありましたが、一生懸命に取り組んでくれて嬉しく思いました。一緒に浴衣を着て鹿島神宮へ参拝に行ったり、ショッピングをしたり、沢山の思い出を作ることができました。5日間のホームステイを終えて、別れが近づいてきても実感がわかずバスに乗った時、ついにお別れなんだという悲しい想いがこみ上げてきました。でも楽しかった思い出を振り返り、今までありがとう！と笑顔で送り出しました。出会えた事の奇跡を改めて感じ、出会いを大切にしていこうと思えるすばらしい日々でした。

## ノーリスク・ハイリターン♪

松本 治伸（土浦第二中学校 松本 朋 保護者）

ホストファミリーの役目を無事終える事ができ、ホッとしております。この度は、貴重な機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。初めてのホストファミリーでしたが、【得るもの】しかありませんでした。バディと一緒に土浦散策や茨城散策へ出かけるたびに、いつも見慣れていた場所にも【新たな発見】があり、元々英語が苦手だった娘は、一気に【英語好き】になり、バディを囲んでの【家族の会話が増え】ました。

娘だけでなく家族全員の素晴らしい経験となり、生涯の忘れられない思い出を作ることができました。今回、娘とバディに生まれた繋がりは、今後も絶えることなく続いていくことを願っております。

安藤市長をはじめ、事務局のみなさま、受け入れにご協力頂きました中学校の先生方、関係者の皆さまへ心より感謝申し上げます。

今後、ホストファミリーになられるご家庭の参考までに、  
以下にて、我が家のホストデイ事例をご紹介します。【8：00～20：00】

- ①事前に申請し、許可を得て、食品スーパーの開店前の店内を見学。
- ②セリアでお買い物。③一時帰宅の途中で、蓮田を見学。
- ④浴衣に着替えてから、高速で潮来 IC へ向かう途中に牛久大仏を見学。
- ⑤潮来 IC 降りて、道の駅潮来で休憩。⑥鹿島神宮散策&茅の輪くぐり。
- ⑦私の実家で、娘の祖母から折り紙を習い、手裏剣の作り方を覚える。
- ⑧帰宅し、夕食後に手持ち花火大会。⑨自宅で土浦かるた大会。

## < Celena と 松本ファミリー >



① 祖父母宅での集合写真

【左から、母、兄、姉、姉、Celena、朋(るな)、父】



②【にぎり寿司】クッキングナイト♪



③ 土浦市散策【八坂神社】



④ 土浦市散策【霞ヶ浦総合公園】



⑤ホステイ△【コプ°つちうら店】

【開店前の店内見学、豆腐の安さに驚き！】



⑥ホステイ☺【鹿島神宮】

【バディと2人そろって、浴衣姿でお参り♪】

Thank you for the wonderful memories !

土浦第二中学校 9年 仲田 真優

6月14日、待ちに待ったパロアルトの中学生たちが土浦に来てくれました。バディたちを見た途端、やっと会えた嬉しさから思わず涙が込み上げました。このときの感動は一生忘れることができません。

わずか5日間のホームステイ受け入れでしたが、一緒に過ごした時間はとても充実したものでした。2日間の学校訪問では、琴を弾いたり皆で給食を食べたりなど、日本らしい文化の体験ができました。また、クラスの皆と話したり遊んだりし、思い出に残るような時間を過ごすことができたと思います。向上庵での座禅体験やクッキングナイトも印象深い思い出です。中でも、私が一番楽しかった日はホストデイです！私達は浴衣を着てまちかど蔵や水郷公園を歩き、写真を撮ったりなどしました。書道体験や手持ち花火も一緒にし、一生の思い出になる一日になりました。

ですが、楽しかったことと同じくらいに大変なこともありました。自分が伝えたいことがうまく英語にできず、ボディランゲージを使って話したり、バディが話す英語が聞き取れず、もう一度言ってもらうことも多くありました。しかし、それがこれからの自分に対しての課題だということを認識することができ、本当に良かったと思います。例え言語の壁があっても、お互いの文化や価値観の違いに気付き、それを認め合うことの大切さを体感することができました。

いつかまたバディと会ったときには、今回よりも自然な英語で話せるようにしたいと強く思います。自分の将来のためにも、ホームステイ受け入れという体験を良い方向に活かしていきたいです。

短い間でしたが、数多くの貴重な体験をありがとうございました。



## パロアルトからの中学生を受け入れて

仲田 里美（土浦第二中学校 仲田 真優 保護者）

土浦市姉妹都市交流事業にて、わが家がホストファミリーに決まってから、多少の不安な気持ちとワクワク・ドキドキしながら6月14日を迎えました。バディの姿を見つけた娘は、感極まって泣き出してしまいましたが、それだけ楽しみにしていたことを改めて認識し、娘とバディが楽しい気持ちを持続できる環境づくりを目指しました。

『ペスカタリアン』という、魚介類は食べられるベジタリアン（肉類は一切食べない）のバディのために、給食を含めた食事は、動物性由来のものが入っていない材料を準備して対応しましたが、この部分が一番気を使いました。

コミュニケーションに関しては、娘とバディは主に英語で会話をしていたようですが、時には笑い声も聞こえてきたり、楽しそうでした。

ホストデイに関しては、娘と共にたくさんの日本体験をしてもらいたいと考え、浴衣を着て市内散策や、書道・花火ができました。

たった5日間でしたが、娘とバディがそれぞれ、そして私たち家族にとっても、一生の思い出になる体験であったことは間違いないと確信しております。

今回は、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

## Alex と仲田ファミリー

Buddy : Alex Host : Mayu  
Father, Mother  
Younger sister, Younger brother



【学校訪問】  
箏体験を  
しました♪



【クッキングナイト】  
ビスケットと手巻き寿司を作りました!



天ぷら手巻き寿司が  
お気に入り♡

【ホストデイ】

浴衣を着て霞ヶ浦総合公園・まちかど蔵・亀城公園を散策し、  
書道・祭囃子の練習見学・花火などたくさんの日本文化を  
体験しました。



## ホストファミリーになって

土浦第三中学校 8年 中谷 優菜

私はホストファミリーになって感じたこと、驚いたことや学んだことがたくさんあります。

最初の対面式では、まだホストファミリーになる自覚がなく「英語で、話せるかな?」「私で大丈夫かな?」などの様々な感情がこみ上げてきました。そしてついに留学生が乗っているバスが二中公民館に来ました。バスからバディが下りてきてハグをした瞬間に、不安や緊張はなくなりました。

バディとはLINEを通じてコミュニケーションを事前にとっていました。しかし、いざ目の前にすると、緊張でうまくコミュニケーションをとることが出来ませんでした。スマホの翻訳を使うことが多く、なかなか会話がうまくいきませんでした。でも、恥ずかしがらずに勇気を出して、カタコトの英語でしゃべると意外とカタコトの英語でも通じて、会話が弾むようになってだんだんと二人の距離も近くなってきました。

最初の学校に行く日は、バディが体調を崩してしまって、一日目の学校は行けませんでした。午後から体調がよくなり近くのコンビニへ行ったり、散歩をすることができました。

金曜日の座禅体験は、私も初めての体験だったので、緊張とワクワクが止まりませんでした。座禅中は足が痛くすごく大変でした。でも、座禅を体験することはなかなか出来ない事なので、良い経験になりました。

最後に、このような素晴らしい機会を作っていただきありがとうございます。この経験を将来に活かしていきたいと思います。

## 貴重な経験

中谷 紋子（土浦第三中学校 中谷 優菜 保護者）

今回このような貴重な経験が出来、とても感謝しています。

5日間という短い期間でしたが、とても充実した時間でした。

ホームステイが決まった時はとても嬉しく、何をしたら喜んでくれるか、どんなご飯を用意しようかと、とてもワクワクしていました。研修を重ね、対面式まで家族と色々話合いをして当日を迎えました。対面式でバスが公民館に着いた時は、込み上げるものがあり感動してしまいました。

初日は、バディが誕生日だったので、ケーキを用意しお祝いをしました。とても喜んでもらえてこちらも嬉しい気持ちになりました。最初はお互い緊張していて会話は少なかったけれど、少しずつ慣れ、たくさんコミュニケーションがとれたと思います。

ホストデイでは、バディの希望でゲームセンターに行き、思う存分遊んでもらいました。日本のクレーンゲームやガチャガチャをやる為に、お金を貯めていたみたいです。水郷公園の風車に行き、霞ヶ浦をバックに記念写真も撮りました。夜は、クッキングナイトでパスタを作ってくれました。バディの住んでいる地域はスパイスに慣れているらしく、とても辛かったため子供たちは、ヒーヒー言いながらも食べていました。大人はとても美味しくいただきました。近所の同級生が集まってくれ、花火をしたり、コンビニまでナイトウォーキングをしたり思い出作りをしました。

最後の日は朝から寂しい気持ちでいっぱいでしたが、みんなで最後の家族写真を撮り、また会うことを約束しました。

この5日間は、私たち家族にとってとても貴重な経験になりました。今回は向こうから来ることしか出来ませんでした。もしまた交換交流が出来た時にはパロアルトにも行かせてあげたいです。

土浦市、パロアルト市の関係者の方にはたくさん支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。これからも交流が続くことを願っております。

## Harriet と中谷ファミリー



### 【Harriet のバディゆなと中谷ファミリー】

初日はお互い緊張して口数も少なかったけど  
だんだん慣れていき、たくさんお話出来ました。  
UNO は最高に盛り上がりました！！



### 【クッキングナイト】

Harriet が中心となってロゼパスタをゆなと一緒に作ってくれました。  
とてもスパイシーで子供たちはヒーヒー言いながら食べていました。  
とてもおいしかったです。



### 【ホストデイ】

Harriet の希望でゲームセンターへ  
この日の為にお金を貯めていたそうです。  
思う存分楽しんでもらいました。  
霞ヶ浦にも行き、穏やかな景色に癒されました。

## ホームステイで友達ができたこと

土浦第四中学校 7年 阿久津 丈雄

アメリカのパロアルト市から、中学生がやってくると聞いて、最初はうまくイメージできませんでした。まず地図で場所を調べて、自分がよく行くところと比べてみました。バディが住んでいるパロアルト市は、すごく遠くにあります。そんな遠くから来る人と友達になれるのかと思うと、すごくドキドキしました。

来る日が近づき、楽しみになってきました。実際に家に来るとうまく話せなくて、不安でした。でも徐々に緊張もなくなり話せるようになりました。学校では、百人一首やドッジボールなどをしてバディやクラスのみんなで一緒に楽しむことができました。家では豆腐ハンバーグを一緒に作りました。美味しいハンバーグができ、たくさん食べてくれたのでうれしかったです。バディも僕もテレビゲームが大好きなので、いっしょに楽しみました。対戦して何回も負けたけど、とても楽しかったので遊び足りない、もっと遊びたいと思います。ホストデイには、陸上記録会と一緒に来て応援してもらったり、牛久大仏の胎内に入ったり、お猿のショーを見たりして、楽しみました。

4日間一緒に生活して、最後の日の公民館でのお別れの時は、もっと仲良くなりたい、まだ帰ってほしくないと思い、とても悲しかったです。今度は自分がパロアルト市まで行き、バディとゲームをしたり話したりしたいです。そしてもっと上手に楽しく話すために、英語の勉強をたくさんしたいです。

## 楽しかった日々

阿久津 源英（土浦第四中学校 阿久津 丈雄 保護者）

今回のホームステイを通して、最も貴重な財産となったことは、子どもたちの積極性を引き出したことだと思います。言葉も生活習慣も異なる外国からのお客さんと寝食をともにすることになり、コミュニケーションを取らなければならない、という状況になったことが、子どもたちの「自分で何とかしなきゃ」という気持ちに火をつけました。これまでに学習してきた英語やジェスチャー、さらには今どきの子らしくスマホアプリを駆使したりして、自分たちの力で（？）一所懸命に意思疎通を図っていました。

生活面で最も大変だったのは、やはり食事でした。バディはもともと少食だと聞いていたのですが、食事の量が少ないのを目の当たりにすると心配になったものです。それでも、豆腐ハンバーグやフーチャンプルーと一緒に作ったときは楽しく食べてくれたので、安心しました。

4泊5日という短い期間の中で、なかなか緊張がほぐれるまで時間がかかったものの、ホストデイには牛久大仏など近隣を観光し、最後の夜には、腹を抱えて笑い転げるほどに打ち解けてくれました。将来、必ず再会しよう、と約束し、無事ホームステイを終えることができました。

このような貴重な機会を提供してくださった市役所の市民活動課と土浦市国際交流協会の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。今後とも土浦市とパロアルト市の交流がますます活発なものとなるよう願っております。

# トビ君ーと阿久津ファミリー



はじめまして！  
トビ君



姉の円香も一緒に  
3人で登校



つちまると記念写真

クッキングナイト  
みんなで豆腐ハンバーグを作りました！



～ホストデイ～

丈雄の陸上記録会！みんなで応援に！



☆牛久大仏観光☆





## パロアルト市との交流を通して

土浦第五中学校 8年 濱田 民雄

パロアルト市との交流を申し込んだ理由は英語力を鍛えたかったからです。とっさに文を思いついたり、表現する力が高まると思いました。自分は英語に苦手意識があり、特に話すことが苦手でした。だから、留学生の Tyler とうまく話せるかとても心配でした。けれども、対面式の前から、Tyler はビデオを送ってくれたり、メールを頻繁に送ってくれたりしたので、会うのが楽しみになりました。

ついに迎えた対面式では緊張であまり話せなかったけれど Tyler は明るく優しく接してくれたのでとてもうれしかったです。夜に一緒にゲームをしたり、キャッチボールをしたり、ピアノを弾いたり、いろいろなことを楽しみました。学校では音楽の時間に演奏をしたり、英語でゲームをしました。友達との交流も深まりました。放課後には、父の運転でレンコン畑の中をドライブしました。

他にもアメリカでは珍しい自動販売機を使ったり、餅を焼いて食べたり、回転寿司に行ったりと、日本の文化を楽しみました。ホストデイに行った牛久大仏からの眺めは高くてドキドキしたけれど、楽しかったです。夜には寿司と一緒に握り、僕も Tyler もサーモンが好きなので、たくさん食べました。

答礼パーティーでの福笑いは英語で伝えることが難しくて全然できませんでした。帰りのバスが到着したときは Tyler と Tyler の家族と写真を撮りました。別れるのがとても寂しかったけれど、一生に残る思い出を作ることができたと思います。これからも Tyler との友情、そして他の国の方々との交流を大切にしたいです。

## Tyler さんを迎えての初めてのホストファミリー

濱田 敏雄（土浦第五中学校 濱田 民雄 保護者）

私自身が土浦五中2年時（1993年だったと思います）も同様の交流事業があったにも拘わらず、申し込みを断念していたことを長年後悔しておりました。ですから今回まで継続していただき誠に感謝いたします。4泊5日と短い期間でしたが、中学生の民雄も、小学生の長女、次男も、民雄の祖父、祖母も Tyler さんと交流ができて本当に良い体験になり、特に長女や次男は、Tyler さんとのやりとりで家族意識が芽生えました。

受け入れ希望するときは、不安でいっぱいだった民雄も、対面式以降、緊張がかなり解け、コミュニケーションがとれるようになりました。貴重な経験をするのができ、とても感謝しております。中学校体験では、Van さんと Tyler さんが民雄のクラスで一緒に過ごし、放課後には、れんこんの圃場を見たり、スーパーにいたり、希望していた自動販売機でジュースを買ったりしました。朝食にはおにぎり、味噌汁、おやつに餅、外食に回転寿司、ラーメン、クッキングナイトには自ら寿司を握るという食生活を堪能されました。ホストデイには牛久大仏の拝観、夜には花火を楽しみ、日本の文化を満喫していただけたかと思えます。Tyler さんのご両親ともお話でき、私たちもよい経験ができました。

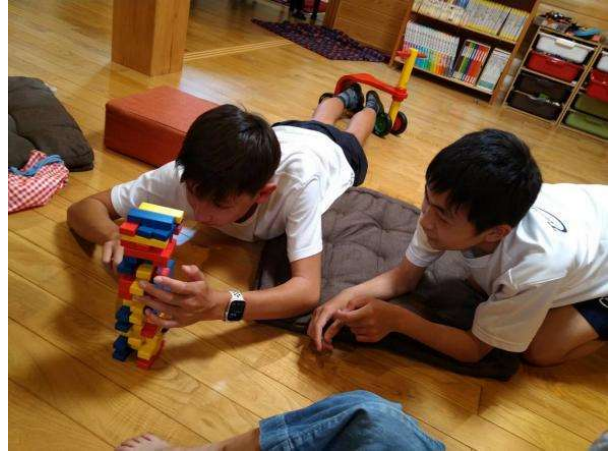
これからの世界、社会全体は、間違いなく国際交流が一層盛んになります。SDGs が知識から常識になり、持続性、多様性がより求められる時代になっていく中、多種多様な人々と同じ釜の飯を食べて交流する経験は将来、必ず役に立つと感じます。ぜひ土浦市及び国際交流協会の活動として、持続的な活動になりますよう支援したいと考えます。

## Tylerさんと濱田ファミリー



### レンコン圃場を背景に

放課後、ホストファミリー宅近くの霞ヶ浦付近を散策しました。  
二日目なので、お互いに緊張しています。



### ジェンガ対決

3日目。打ち解けてきて、パディのきょうたい、従姉妹と、  
テレビゲーム、ジェンガ、黒ひげ危機一髪等を。



### ホストデイは大仏へ観光

大仏の中に入ったり、屋外で行われていた猿の芸を  
見たり、鯉の餌やりをして楽しみました。



ホストデイのランチは中華料理&ラーメン  
牛久大仏の後はラーメンを食べたいということで、  
中華料理のチェーン店へ。



クッキングナイトで大好きな寿司を握る Tylerさん  
我々ホストファミリーと、一緒に寿司を握りました。  
前日も寿司チェーンで寿司を食べましたが。



### 花火を楽しむ Tylerさん

手持ち花火はアメリカでは珍しいのか、とても楽しんで  
いました。

## ホームステイ受け入れ 2023

土浦第五中学校 9年 石和田 湊

### (1日目)

会うまでは顔の写真しか見ていなかったのですが、バスから降りて来たとき、1つ歳下でも、今まで見たことのあるどの中学生よりも高い、想像を超える身長にとっても驚きました。土浦へ来る前の観光でたくさん歩いたり、長時間のバスで疲れていたこともあり、この日は回転寿司で軽めに食事をし、お風呂に入ってもらい、少し遊んで早めに寝ました。家に来てもらい、自分の家を紹介する新鮮さと、相手の少し慣れていないことによる緊張の様子は面白かったです。

### (2日目) (3日目)

学校体験は、部活動の総体により一緒に行く事が出来ませんでした。学校での生活はとても楽しかった」と言ってもらえたので安心しました。座禅体験では、同じ事を一緒に経験することが出来て良かったです。夜は僕の友達と一緒に、カードゲームや腕相撲対決、銭湯へ行くなど、とても楽しかったです。

### (4日目 ホストデイ)

ゲストの子に会いたいと言っていた僕の友達と一緒に、牛久大仏の中を見学したり、イオン、ボウリング、買い物、花火、焼肉など、とても良い思い出になりました。

### (5日目)

お別れ前のパーティーは複雑な気持ちでしたが楽しかったです。

Van 石和田家に来てくれてありがとう

石和田 恵（土浦第五中学校 石和田 湊 保護者）

今回、ホームステイ受け入れをさせていただくことが出来て本当に良かったです。元々日数が少ない中、息子の部活総体と重なってしまったこともあり、一緒に過ごす時間がさらに減ってしまいVanには申し訳ない気持ちでしたが、同じ五中で受け入れをされた濱田さんご家族や学校の先生方にご協力をいただき、民雄くんと8年生のクラスの皆さんのおかげで、学校体験の2日間とても楽しく過ごせたようでした。初めて会う人はまずVanのイケメンぶりに驚き、学校へ迎えに行ったときには、まるでアイドルのように女の子たちに囲まれて大人気でした。Vanと湊(息子)2人でのやり取りは、何か決める際や買い物など、何でもゲーム感覚で楽しんでいました。湊の友達も来てくれて、UNO(カードゲーム)をしたり銭湯でゆっくり語ったり。また別の友達と牛久大仏見学、イオン、ボウリング、花火など。普段遊んでいる友達の中にVanという友達が1人増えただけのような感じで、本当に楽しそうでした。ただ、相手のことをよく見て考えたり、一生懸命会話をしようとする姿は、普段なかなか見られないものでした。ルールや言葉が違うからこそ自然と出来たものかもしれません。

Vanとの出会い、一緒に過ごした経験、自分の友達、今後も大切にしたいと思います。パロアルト市へ会いに行く目標も忘れずに。

# Van Calvert ✕ Ishiwada

Welcome to Tsuchiura City and the Ishiwada Family



はじめまして  
回転寿司



猫の虎吉のことを  
とても可愛がって  
くれました🐱



スマブラ対決  
接戦!!



お家でタコ焼き



放課後はカフェへ



ラテアートプチ体験



共同作業

ゲームで仲を深めて

風呂で語った!



辛いのが好き



Friend



最後まで楽しそう♡

Vanありがとう  
また会いましょう



## ホームステイ受け入れから学んだこと

土浦第六中学校 9年 神立 春陽

私は土浦市の姉妹都市交流の一環である、ホームステイ受け入れに申込みをしました。もともと私は英語は得意ではありませんでしたが、楽しそうだなと思ったのと、リアルな外国の文化を知ってみたいという理由で応募しました。

バディが来るまでの間、私はしっかりとホストファミリーとして、バディとしての役割を果たせるか心配でした。自身の英語力や、コミュニケーション能力にも自信はなく、不安要素もたくさんありました。しかし、バディが日本に来て、楽しく過ごせるように準備をし、最終的には無事に迎えることが出来ました。

バディが来てから私は、英語で上手く話せなかったり、何を話していいのか分からなかったりして、心配していたところが顕著に現れてしまいました。しかし、それよりも大変だったのは、日本の文化とアメリカの文化との違いです。例えば、入浴の際や食文化の違いなど、日本とアメリカで違うところが多く、それを英語で伝えたりするのが大変でした。また、固有名詞を英語で伝えるのが難しく、翻訳しても上手く伝わらなかったり、そのまま日本語でも伝わるものなのかななどの問題に苦しみました。しかし、バディは学校見学やホストデイ、クッキングナイトなどで楽しそうにやっていたり、感想を聞いたときに楽しかったと言っていたので、本当に嬉しかったです。

私は、この体験から、私が知りたいと思っていた外国の文化だけでなく、言語、コミュニケーション能力の大切さを学ぶことが出来ました。この経験はとても貴重な体験でした。これからは、進学などで新しい出会いも増える中で、今回学んだコミュニケーション能力を活かしてきたいです。これからもバディとの交流が続いていくといいなと思います。

## ホームステイの受入れを体験して

神立 清（土浦第六中学校 神立 春陽 保護者）

今回のホームステイの受入れは、娘の強い希望があって申込みをしたものの、実際に決まってからは楽しみな半面、不安もありました。私達は英語が得意ではなく、上手く話せる自信がなかったからです。でも歓迎する気持ちとスマホの翻訳機能があれば何とかなるだろうと開き直りました。

受入れ初日、我が家に来てくれたテリーサは少しシャイな女の子でした。当初、私達も固くなっていましたが、テリーサも外国の知らない家で過ごすことに私達以上に不安があったと思います。でも、初日にお米が大好きだと聞いて肩の力が抜けた気がします。

娘の通う中学校に行った際は、とても楽しかったようでした。娘の話では、テリーサの席の周りを沢山のクラスメイトが囲んで賑やかだったようです。

クッキングナイトでは、一緒に天ぷらや唐揚げを作ったり、トランプや花火をするなかでお互いの緊張も解けていったと思います。また、茨城特産のメロンやかぼちゃを美味しいと言ってもらえ、嬉しいと同時にほっとしました。

ホストデイの行き先は、家族で意見が分かれ、潮来のアヤメ祭り、大洗の水族館、石岡のフラワーパークの3つの候補があり、プレゼンの結果、テリーサの希望で水族館に出かけました。サメやマンボウ、イルカのショーも楽しんでくれたようです。直接、ヒトデやナマコを触ったときのドキドキしたいる様子も印象に残っています。やはり、楽しそうな様子だとこちらも嬉しくなりました。

こちらに気を使って疲れていないか心配でしたが、帰りの車内で寝ている様子を見て安心しました。

ホームステイが終わった今は、テリーサが座っていた椅子に誰もいないことを少し寂しく思います。当初は5日間でも大丈夫か心配でしたが過ぎてしまえば、短かったと感じます。子どもも私たち親も、視野を広げてもらった体験でした。これを機に、娘が英語を頑張って勉強してくれると良いなと密かに思っています。

コロナの状況が不確定ななか、色々と準備、サポートしてくれた皆さん、大変ありがとうございました。



## テリーサと神立ファミリー



みんな笑顔で！

## 学校体験



中学校訪問の記念に



霞ヶ浦総合公園に行きました

## ホストデイ

クッキングナイト  
天ぷらと唐揚げ、  
美味しくできました



大洗磯前神社にて

テリーサ初花火！



## ホームステイ、五日間の思い出

土浦第一高等学校附属中学校 1年 大関 直

一か月前がまるで昨日のここのようです。ホームステイでバディだったのは、ワイエット・サクソン君。ワイエット君とのやりとりも、はじめはメールの英語もしどろもどろで、すべて打つのに1時間もかかりました。すべて自分で打った英語の文を送ったときの興奮は忘れられません。何日かたつと半分にも時間が縮まり、自身の英語力が上がっていることに驚きました。6月14日、初めてワイエット君と会った日。それからのホームステイ5日間でぼくは2つの力が上がりました。一つ目は英語力。日ごろからワイエット君と英語で話すうちに、自然と英語力の高まりを感じるようになりました。「自分の英語が通じる」という事実がとてもうれしかったです。また、分からない単語をワイエット君に聞くこともありました。ネイティブ発音は聞き取れないこともあり、「pardon?」の発音だけは一流に。二つ目はコミュニケーション力。僕もワイエット君も、少し人見知りがありました。最初の一日は、雑談など交わす余裕はほぼありませんでした。しかし、5日間という日にちを共に過ごすうちに、次第にお互いにしゃべる量が増えていきました。自分の話でワイエット君が笑ってくれると、とても嬉しかったです。最終日のお別れ会では一緒に写真を撮ることができました。BBQやクッキングナイト、学校体験での授業など、楽しかった思い出をたくさん作ることができました。このイベントに参加することができて、本当に良かったです。

## ホストファミリーを経験して

大関 一弥（土浦第一高等学校附属中学校 大関 直 保護者）

13歳のバディを受け入れるにあたり、「自分の子が初めて海外に行き、ホームステイをする」と想像した時に、これはなかなか大変なことで、できる限りのことをして迎えなければと思いました。

しかし、最初のうちは、緊張や語彙力の無さからなかなか話せず、また、バディもかなり疲れている様子で、早く休ませなければとも思いました。初日から3日間は、朝から夜まで予定があり、いつの間にか夜も9時を過ぎ、シャワーを浴びて、歯を磨き、布団に入るという状態でした。

そのような中、3日目の座禅体験で、パロアルトの中学生達が集まると、うちにいる時とは別人のように楽しそうに話していました。あんなに楽しそうな顔をするのだという驚きと、なかなか打ち解けられない悔しさが湧いてきました。そこで、英会話アプリを使ってでも意思疎通をしっかりとしなければと奮い立ちました。座禅体験の待機中は、他のホストファミリーから受け入れの様子や工夫を情報交換できたのも収穫でした。

ホストデイには、友人達を呼んでBBQをしました。スイカ割りや水風船、シャボン玉、ドッチボール、UNOなどを楽しみ、最後に花火をしました。かなり暑い一日でしたがみんな楽しんだようです。

子どもたちが生きた英語に接することができたのは、とてもいい刺激になりました。特に印象に残っているのは、お土産にもらった英語の絵本の読み聞かせをしてもらったことです。隣で生の英語で音読してもらおうと、特別な時を過ごした感じがしました。

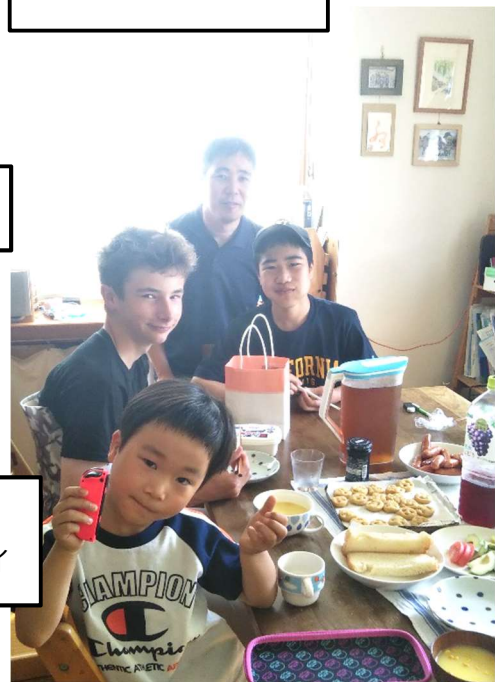
最後に、このような経験をさせていただき、土浦市とパロアルト市の関係者の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

# Wyatt と 大関ファミリー



バディ : Wyatt (ワイエット)  
大関家 : 直 (なお)  
父・母・姉・弟

朝ごはんのひとコマ



クッキングナイトはパスタ♪



初めてのスイカ割り  
(たぶん) @ホストデイ



水風船大会 @ホストデイ



BBQ @ホストデイ



参加者レポート  
Voices From Palo Alto

## パロアルト市引率者一覧

No.	氏 名	備 考
1	Jennifer Buenrostro	ネイバースアブロード副会長
2	Evelyn Shimazaki	ネイバースアブロード副会長
3	Stacy Wu Savard	Tyler Savard さん（五中濱田さんの buddy）の母
4	Mark Savard	Tyler Savard さん（五中濱田さんの buddy）の父

(Jennifer Buenrostro, Chaperone)

First, I wish to thank Mayor Ando, her staff, and the Tsuchiura families for welcoming our Palo Alto students and chaperones to your beautiful city once again! As you know, the novel Coronavirus delayed our annual student exchange. As of March 2023, Tsuchiura's students, teachers and chaperones were not yet allowed to visit us in California. Under these circumstances, it was extraordinarily generous of you to welcome us in a one-way exchange, and we are very grateful for your invitation.

Having been the Vice-President of Neighbors Abroad in charge of our cherished Sister City relationship for the past ten years, I am extremely lucky to have visited Tsuchiura many times and have met many new and dear friends. We have mutually strengthened our friendships, and our sister city relationship has become stronger with every year that has passed. Our visits to Tsuchiura remind us that you live in a very special place, and have left us with memories of wonderful, caring people, beautiful families, and your rich history and culture.

The Student Exchange Program has touched so many lives! It is a robust and exemplary model of what a true exchange program should be. I am proud that Palo Alto and Tsuchiura will continue to be lifelong sister cities and be friends and share our stories with each other. My successor, Evelyn Shimazaki, is committed to continuing the program, and we all look forward to seeing your students, teachers, and chaperones when you visit Palo Alto soon.

引率 ジェニファー ブエンロストロ

まず、安藤市長、市スタッフ、そして土浦のご家族の皆様、再び美しい貴市にパロアルトの生徒およびシャペロンをお迎えくださいましたことに御礼を申し上げます。ご存じの通り、コロナ禍で、例年の交換交流が延期となっております。2023年3月時点では、土浦の学生、教師、および引率はカリフォルニアの私たちを訪問することが許可されていませんでした。このような状況下で、寛大にも片道交流という形で私たちを歓迎していただくというお心遣いをいただきまして感謝申し上げます。

過去10年にわたりネイバーズアブロード副会長で姉妹都市関係を育んできた担当者として、土浦を何度も訪問し、新しい友人、親しい友人に出会ったことは幸運なことであります。相互に友情を深め、両市の関係は年を追うごとに強くなっていきました。土浦を訪問すると、皆さんは特別な場所に住んでいるのだ、と気づかされます。また、人々を思いやり、素晴らしい家族、長い歴史と文化に育まれているという素晴らしい思い出を私たちに残してくださっています。

中学生交換交流事業は多くの人々の人生に影響を与えてきました。堅実で模範となるべき真の交流事業の姿を示しています。パロアルトと土浦が、長きにわたって姉妹都市であり、友人であり、互いに歴史を紡いでいくことを誇りに思います。私の後任であるエブリン シマザキ氏は責任をもってこの事業を継続させます。また、私たち一同、パロアルトで生徒、教師および引率の皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

## Tsuchiura, Japan

(Evelyn Shimazaki, Chaperone)

When our bus pulled into the Tsuchiura community center parking lot last June 14, 2023 we were greeted warmly by the Tsuchiura students and their families, holding up signs of each student's name. In true Japanese fashion we were treated to a program with City of Tsuchiura officials and staff as well as the President of Tsuchiura International, Yuko Fujita, who formally welcomed us to Tsuchiura before our Palo Alto students were ushered off to join the households of their homestay families. We had been an hour late and feeling weary from travel after visiting the cities of Tokyo, Hiroshima, Kyoto and Himeji over a period of five days. The excited and eager faces of the Tsuchiura students and their families buoyed our spirits as the long-awaited homestay portion of the trip was finally here. It was a once in a lifetime opportunity for Palo Alto students to experience life in a Japanese household, attend a Japanese school and be immersed in Japanese language, culture, and cuisine.



We were four chaperones to ten Palo Alto middle school students. While the students shadowed their buddies and attended classes at various Tsuchiura middle schools, the chaperones had a busy itinerary of meetings and visiting three different middle schools. In each middle school, we were greeted at the school entrance by the Vice-Principal and given a personal tour of the school. For example, we visited a music class where the students, including two of our Palo Alto students, were learning to play the Japanese Koto. In another class, two of our students learned Japanese calligraphy. At the third middle school we visited, the Vice-Principal even helped to serve us a hot lunch. We felt like visiting dignitaries as we ate that lunch in the Principal's office instead of the cafeteria. Being new to the Tsuchiura-Palo Alto Student Exchange Program, I wasn't prepared for the warmth, kindness, and friendship extended to all of us. At the end of the homestay, I spoke with some of the parents who hosted our students. They lamented that they didn't do enough when clearly they had gone above and beyond by providing our students with uniforms, adhering to dietary restrictions, entertaining students on Host Day and doing everything possible to make their student feel welcome.

Tsuchiura and Palo Alto will celebrate their fifteen year sister city relationship in 2024. However, the student exchange began in 1993 when parents on each side of the Pacific started the program that endures today. The program has seen approximately 250 Tsuchiura students and chaperones visit Palo Alto and over 200 Palo Alto students and chaperones visit Tsuchiura. We are fortunate that the program resumed this year after a three-year hiatus



during the COVID 19 Pandemic. Next year in March, Palo Alto looks forward to hosting sixteen Japanese students.

A program like this has many moving parts and we are grateful for the hard work and efforts of the Tsuchiura City personnel, especially Yoshinori Sano and Kayoko Ozeki, for their part in making these eventful five days in their city a success. We also acknowledge the support of Tsuchiura's Mayor, Mariko Ando, and the vision of Tsuchiura International's President, Yuko Fujita, who hosted a lovely dinner for all of us chaperones. Last, but not least, we owe a debt of gratitude to the Tsuchiura students and their families, who opened their homes to our students so we could have a program in 2023.

引率 エブリン シマザキ

2023年6月14日、私たちを乗せたバスは土浦市公民館の駐車場に到着しました。ここでは各々の生徒の名前が書かれたボードを持った土浦市の生徒およびその家族が温かく出迎えてくれました。生徒たちは、それぞれのホームステイ家族の一員となる前に、日本らしいホスピタリティに満ちた雰囲気の中、土浦市関係者、スタッフ、および藤田佑子土浦市国際交流協会会長による、対面式が催されました。東京、広島、京都、姫路を5日間かけて訪問した後でしたので、私たちは遅くに到着して、旅の疲れも感じてはいましたが、土浦市の生徒とその家族の興奮に満ち、また真剣な表情を拝見し、待ちに待ったホームステイが始まるのだ、という私たちの気持ちを高めてくれました。パロアルトの生徒にとっては、日本の家庭生活を経験し、日本の学校に通い、日本語、文化、料理に熱中できる一生に一度の機会でした。私たち4人は、シャペロンとしてパロアルトの中学生を引率しました。生徒たちは土浦の中学校に通い、一緒に授業を受けました。一方、私たちシャペロンは三校の中学校を訪問するという忙しい日程をこなしました。学校見学では、日本の音楽の授業で、生徒に交じってお琴の弾き方を学ぶパロアルトの生徒二人を見学したりしました。別の授業では、私どもの生徒二人が書道を学んでいました。三校目に訪れた中学校では、副校長は私たちのために給食の準備をしていただきました。食堂ではなく、校長室で給食をいただいたため、私たちは要人になったような気分になりました。私自身、この交換交流事業に参加するのは初めてでしたので、いただいた温かさ、親切さ、そして友情に驚きました。ホームステイ最終日には、数人のホストファミリーの方々と話しをしました。ご家族は、充分にもてなしができなかつたと悔やんでおられましたが、制服を準備し、食事制限のある生徒にも対処し、ホストデイでは生徒たちを歓迎するために一生懸命努力してくださり、求められる以上のことをやっていただきました。

土浦市とパロアルト市は2024年に姉妹都市締結15周年をお祝いすることにしています。もとはといえば、学生の交流は、1993年に太平洋をはさんだ両市の親たちにより始められました。そして今日まで続いている事業となっています。これまでに土浦市からは約250名の生徒と引率がパロアルトを訪問し、また、200名以上のパロアルトの生徒及びシャペロンが土浦を訪問しています。コロナ禍で3年間の中断をはさみ、今年この事業が再開できたのは幸運なことでした。来年3月には、パロアルトは日本からの中学生16人をお迎えできるのを楽しみにしています。

このような事業では、身をもって成すべきことが多々あり、このイベントに満ちた5日間を成功に導いた土浦市スタッフ、特に、佐野善則氏、および大関香代子氏のご尽力に感謝いたします。また、安藤真理子土浦市長、そして私たちシャペロンにすばらしいディナーをふるまっていただきました、藤田佑子土浦市国際交流協会会長のサポートに対しましても御礼を申し上げます。

最後になりましたが、私たちは、土浦の生徒およびご家族が私たちの生徒を家庭にお迎えいただき、2023年の事業を遂行することができましたことに対して感謝申し上げます。

Tsuchiura is a special place for me and my family. My dad was invited by Tsuchiura city to run the Kasumigaura Marathon back in 2013 so I got to visit Tsuchiura when I was 4. Unfortunately I don't remember anything, but the photos show we had a great trip. My mom went to University of Tsukuba near Tsuchiura for college. So when I had the chance to go visit this summer through this program, it seemed like a great opportunity. I wasn't sure of my choice initially, but after the trip, I was decidedly glad I had gone.

I have been to Japan many times before to visit my grandparents, but I was left with a completely new and different perspective after this trip. Not only did I get to experience new and exciting things traveling across the country, but I got to meet new people, try new types of food, and see new places. I got to visit the floating torii gate of Miyakojima (where they recently had the G7 Summit), visit the Hiroshima Peace museum, and try new foods like okonomiyaki.

Originally, I was nervous because I had recently become vegetarian, and because a lot of Japanese meals consist of meat and fish, I was worried that it would cause a lot of stress on my host family. However, when I arrived in Tsuchiura, they greeted me with a welcoming sign with my name and prepared delicious vegetarian meals for me. I enjoyed making tofu "burgers" with my host family, which were one of the many special meals they made to accommodate me.

I found the Japanese Junior High to be very orderly and structured. The family made sure I fit in by having a school uniform ready for me. I'd never been to a school where everyone wears uniforms. It does make mornings easier to not have to think about what to wear. When I did my introduction in Japanese to the class, students were welcoming and asked many questions about my dog. It seems like dogs are humans' best friends in Japan as well. I was surprised to see students participating in preparing and serving nutritious hot lunches with multiple dishes, which is very different from my middle school where we simply line up to get a prepared lunch. My buddy and his sister were great hosts helping me navigate the school.

My host family was very friendly and helped make my experience memorable. For example, they took me to see Ushiku Daibutsu. Pictures don't do it justice, it was so huge! I also got to see my buddy run in the track meet at a big stadium. It was fun to be a spectator at a Japanese track meet, and watch my buddy run very fast.



The trip definitely expanded my perspective of Japanese culture and provided me with many new experiences that I will cherish for years to come. I am so grateful to my host family for their hospitality and generosity. I hope we stay in touch. I look forward to continuing my Japanese studies in high school. Finally, thank you to everyone who helped make this trip possible for us. Arigato gozaimashita!

トビー ゴルバス

土浦は私と家族にとって特別な場所です。父は2013年に、土浦市よりかすみがうらマラソンに招待いただき、私も4歳のときに土浦を訪れる機会がありました。残念ながら、何も覚えていませんが、写真によれば素晴らしい旅行だったようです。また、母は土浦の近くの筑波大学に通っていました。そのため、この夏、この事業を通じて訪れるチャンスがあると分かったときは素晴らしい機会だと思いました。最初は迷っていましたが、これを経験した後では、行ってよかったとはっきり言えます。

以前にも、祖父母を訪れるために何度も日本に行ったことはありますが、この旅行を経験して、全く新しい考え方を得ることができました。国を横断して新しい刺激的な体験をするだけでなく、新しい人々に出会い、新しい食べ物を試し、新しい場所を見ることができました。宮島の浮く鳥居（最近G7サミットが開催された場所）、広島平和記念資料館を訪れ、お好み焼きなどの新しい味覚を試しました。

当初、私は最近ベジタリアンになったばかりだったので、日本の食事の多くが肉や魚が入っているため、ホストファミリーにはかなりのストレスをかけるのではないかと心配していました。しかし、土浦に到着すると、私の名前が入った歓迎ボードで出迎えてくれ、おいしいベジタリアンの食事を用意してくださいました。私に合わせてくれた特別な食事の一つである豆腐の「バーガー」をホストファミリーと一緒に作るのを楽しみ、堪能しました。

日本の中学校はとても秩序があり、組織的であるということがわかりました。ホストファミリーが私に学校の制服を用意してくれたので、私も溶け込むことができました。制服のある学校に行っていたことがなかったので、朝、何を着るかを考えなくて良いのは楽でした。私がクラスで自己紹介を日本語でした時には、生徒たちは大歓迎してくれて、私の犬について多くの質問を受けました。日本でも犬が人間の親友であるようですね。生徒たちが数種の栄養たっぷりの熱々の給食を盛り付け、提供している姿を見て驚きました。日本の学校とは異なり、私の中学校では単に用意されたランチを受け取るだけです。バディと彼のお姉さんは、素晴らしいホストで、学校内を案内してサポートしてくれました。

ホストファミリーはとても優しく、私の経験を思い出深いものにしてくれました。私を牛久大仏に連れて行ってくれたりもしました。写真ではその大きさが伝わらないほどでした！また、大きなスタジアムでバディが陸上競技大会に出場する姿を見ることもできました。日本の陸上競技大会の観客になるのは楽しく、バディがとても速く走っているのを見ることができました。

この旅行により、私は日本文化への視野を広げ、これからも大切に育むべき多くの新しい経験を得ることができました。ホストファミリーには、おもてなしをいただき、また寛大なお心に感謝しています。今後も交流を続けていきたいです。高校でも日本語の勉強を続けることを楽しみにしています。最後に、この旅行を実現してくれたすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました！

# 活動紹介写真

☆対面式☆ 6月14日(水)



感動の初対面！  
みんな緊張でドキドキ！



藤田会長からパロアルト市との  
交換交流の歴史を聞きました。

☆学校訪問☆ 6月15日(水)~16日(木)



国語の授業！硬筆で自分の名前の練習をしました！



箏の演奏を体験しました！みんなが優しく教えてくれました！



あっという間にクラスに馴染みました！

☆向上庵座禅体験☆ 6月16日(木)



緑に囲まれたお堂へ

姿勢バッチリ!



静けさの中、  
みんなでそろって精神統一



三ツ井先生と記念にパチリ!

☆市長訪問☆ 6月16日(木)



安藤市長の話を  
真剣に聞いています！



日米の代表の2人から  
素晴らしい挨拶をいただきました！





☆答礼パーティー☆ 6月18日(金)



だるまさんが転んだ、誰がタッチした!?



バディとペアで福笑い!  
なかなか難しそう...



今日で一旦お別れ、、、  
また会いましょう!!

令和5年度 土浦市姉妹都市交流  
パロアルト市中学生受入事業実施報告書

編 集 令和5年度土浦市姉妹都市交流パロアルト市中学生受入  
ホストファミリー、参加者及び引率者  
発 行 土浦市国際交流協会 土浦市大和町9番1号  
MAIL kokutab14@city.tsuchiura.lg.jp  
T E L 029-826-9051  
H P <http://www.tsuchiura-ia.jp/>  
令和5年10月10日発行